

平成 29 年 2 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 29 年度第 2 回

与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う

井澤幹事の素読は、氣合いが入っていてとても良うございました。特に、「与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う。与に言うべからずして、之を言え、言を失う。知者は人を失わず。亦 言を失わず」は、考えさせられる所です。司会の塚越参事が言われた人生の棚卸しと直結致します。

この人とはしょっちゅう会いたいものだとか、この人とはじっくり交誼を深めたいと思う人は、人生の棚卸しで残していくべき人です。「与に言うべくして」とは、お互い丁々発止で色々なことが語れる人です。私の場合、前の上毛新聞の社長をしておられた方がそうです。一を言うと、二つ三つ返ってきて、丁々発止の実に楽しいお喋りが出来ました。今は兄の相談役ですね。大分丸くなりましたが、少しやり取りをしていますと丁々発止で実に楽しい。そういう人間関係を出来るだけ残しておいた方がよろしいでしょう。

続けて論語の解説を致しましょう。本日は衛霊公篇 6～7 です。

【七】 しいわ とも い これ い ひと うしな とも い 子曰く、与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う。与に言うべからずして、これ い げん うしな ちしゃ ひと うしな またげん うしな 之と言え、言を失う。知者は人を失わず。亦言を失わず。

孔子が言うには、共に語るにたる人とは、語り合っていこう。そうしなければ縁が遠くなってしまふ。共に語るべき相手でないのに、お愛想を言ってずるずる続けているのは、言葉を無駄にする。知者は共に語るべき人間を失うことはないし、無駄なお付き合いもしない。

やはり相手を見ながら付き合う人を変えるようにした方がよいだろうと感じます。一番良いのは、自然体で知らず知らずのうちに段々と変わってゆくのが理想的です。上手に棚卸しをしていくのが肝要だとお読みください。

【六】 しいわ なお しぎよ くに みちあ や ごと くに みちな や ごと 子曰く、直きかな史魚。邦道有るときも矢の如く、邦道無きときも矢の如し。

くんし きよはくぎよく くに みちあ すなわ つか くに みちな すなわ ま これ
君子なるかな蘧伯玉。邦道有るときは則ち仕え、邦道無きときは則ち巻きて之を
ふところ
懐にすべし。

史魚も蘧伯玉も衛の役人です。孔子が二人を評しています。

史魚は正直な人間だ。国が真っ当な時は、矢のように正しいと思うことを直言して曲げない。国が真っ当でない時でも、正義を直言して曲げない。

蘧伯玉は国が真っ当な時には正しい提言をし、国が乱れている時には言うべきことは腹に収めて黙っている。これは君子の行いだと考えてよい。

日本が真っ当なことを真っ当にやっている国であると思えば、その中で正しいと思うことを直言しても悪くはありません。しかし、北朝鮮の中で正しいと思うことを直言したら大変なことになりますから、当然発言の仕方を考えなければいけません。

「もの言わぬは腹ふくるるわざなり」という喩えがあるけれど、乱世には溜めておいた方がよい。言うべき時にきちんと整理して言えばよいのだ、と捉えればよいでしょう。

【八】子曰く、志士仁人は生を求めて以て仁を害すること無く、身を殺して以て仁を成すこと有り。

孔子が言うには、仁に志す人、仁を完成した人は、死ぬべき時に命を惜しんで仁徳を傷つけることはない。自分の命を捨てても、仁を成し遂げるものだ。

ここは「明日に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」と言った方が分かりやすいでしょう。渋澤栄一さん曰く、明治維新の志士たちは自ら死中に飛び込む時、この言葉を呪文のように唱えていた。自分が今、命を捨てて為すべきことを為せば、後世の人々のためになると思って自ら死中に赴いたという部分です。

死ぬべき時に命を惜しんでしまうと、今迄やってきたものがすべて無駄になる。死ぬべき時が肝心だと捉えればよろしいでしょう。ただ、今の時代だと死ぬべき時というのはなかなか難しいですね。それぞれご自分に置き換えてお考え下さい。

本日の論語はいずれも今の時代に合う、使えるものが沢山入っていますから、熟読玩味して戴きたいと思います。人前で何か話をするような時に使われるとよろしいでしょう。

トランプ現象を考える

トランプさんの就任演説の中身を御覧になった方はおられますか？ 先日、猪瀬理事長と矢野弾先生の所にお邪魔したら、就任演説の全文をコピーして下さいました。先程、川村代表幹事がトランプさんのやっていることは子供の喧嘩だと言っておられましたが、当たり前だと感じます。それは、就任演説の中に沢山入っています。

就任演説には5つほどポイントがあります。評論家が言うには、トランプさんはルールを持ち出したということです。すなわち、アメリカの国民はアメリカ製品を買い、アメリカ人を雇いなさいという2つルールです。

ポイントを拾ってご紹介しましょう。

「あまりにも長い間、我が国の首都にいる少数の者たちが政府の見返りを獲得し、人々がそのコストを負担してきた。(略) 支配階級は自らを保護したが、米国民を守らなかった。」

政権を獲得した一握りの連中だけがいい思いをし、大多数の国民は割を食ってきた。これはけしからんというわけですが、自分もその分け前に預かっていたという本音と、だからクリントンは落ちて私が選ばれたのだという本音が透けて見えます。

「意見をいうだけで行動を起こさない政治家には、もう容赦しない。」

私に敵対してきた政治家は潰してやる！ 私の足を引っ張ったメディアもぶっ潰す！ というトランプさんの思いが込められています。

外国に向けては、次のように言っています。

「イスラム主義のテロリズムに対し、文明諸国を一つにまとめ、そのような勢力を地球上から完全に撲滅する。」

メキシコ国境に壁を作るというのもその延長線上ですし、不法移民も絶対に入れないとも言っています。多くの評論家は、これは選挙のパフォーマンスで言っているだけで最終的には落ち着くだろうと言っていますが、リップサービスやパフォーマンスではなくトランプさんは本音で喋っている部分がありますから、本当にやるだろうなと私は思っています。

更に外国に対して、

「米国のインフラが荒廃と衰退に陥るなか、海外で何兆ドルも費やしてきた。」

と、今こそ返して貰う時だと怒っています。

そして最後にこう締めくくっています。

「ありがとう。あなた方に神のご加護を。米国に神のご加護を。ありがとう。米国に神のご加護を。」

新しく大統領になった人が「神のご加護を」と言っているのです。日本の首相はそんなことは言いませんよね。「米国に神のご加護を」と2回繰り返して、キリスト教国家であると鮮明にしています。ですからトランプさんは、アメリカの大統領は神のご加護を受けて自ら信ずることをやっているのだから人からどう思われようが気にしない、子供の喧嘩だと思われようが気にしないのです。腹の中はそう思っているのですから、メディアと喧嘩をするのも当たり前なのです。

先程の論語に照らし合わせて考えれば、トランプさんからすると、今迄この国には道がなかった。自分が大統領になったからには、この国を真つ当な国にしたいと思って喋っている。信じ込んでやっているのですから、蘧伯玉ではなくて史魚の立場で喋っているわけです。「もの言わぬは腹ふくるるわざなり」だから、そんなことはしない。腹に隠さず何でも言ってしまう、と宣言しています。

この就任演説を見て思ったのは、トランプさんが「アメリカファースト」と言ったのは周りの智恵者がそう言わせたのであって、本当は「トランプファースト」、「トランプ一族ファースト」と言いたいのだと感じました。そう捉えれば腑に落ちます。自分と一族が儲かったなら、何食わぬ顔で1%の富裕層にきちんと入りたいのです。ですから、トランプ現象の今後を考えるには、アメリカファーストではなくトランプファーストだと思ってその行動を見ていれば納得がいくのではないかと思います。

ちなみに、英語に堪能な東京フォーラムの谷口代表や酒井理事によると、トランプさんの英語はとても耳障りな訛りの強い英語で、あまり褒められた発音ではないそうです。上流階級が話すような英語ではないと受け取りました。いずれにしてもとても風変わりな大統領だと思しますので、従来の大統領のイメージで見ていると間違えます。

恒例の質問

では恒例の質問を致します。

- 今年に入って、良い日が続いている方
- 今年に入って、嘘をつかない日が続いている方

しばらく考えている人がいます。手が挙がらないのは、寝る時にあまり考えないでスッと寝てしまうからでしょう。私の場合、夜寝る時に質問の5項目を考えます。最近はそのためにプラスして認知症防止のために、朝起きてから何をしたか、誰と会ってどういう話をしたか、約束をしたか、時系列で思い出すようにしています。それが思い出せると良い日だったと裏打ちされます。そして翌朝目が覚めたら、夜寝る時に思ったことを考えて、すっと思出したならOK、昨日何をしたかが思い出せなかったら認知症が始まったと思えば

よいのです。自分で出来る認知症予防対策です。

- 今年に入って、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方
- 今年に入って、健康法をずっと実践している方

私は夜、家内と認知症予防対策としてこういう動きをしています。前田利家の健康法として紹介されていたもので、軽く膝を曲げて肘を張った状態から深く息を吸い込んで、吐きながらすり足で歩く。これを小一時間やると、腕も足も張って、確かに健康維持になるような気がします。前田利家はこの健康法で長生きをしたといひます。徳川家康は自分で薬を調合して長生きをしました。人それぞれ健康法がありますので、良いなと思う健康法を色々つまみ食いをしてやってみる。そうすると自分が気に入ったものが残ります。

- 昨晚寝る時に、明日もしくは明日以降を過去形でイメージして眠れた方
- 今年に入ってから今日まで、自分磨きをしている方

今年も北方領土返還要求全国大会に行ってきました。この全国大会には毎年必ず総理大臣が出席しますので、その警備状況を自分の眼で確認する為に、毎年参加することになっています。今年も安倍首相は参加していました。ここ数年、総理大臣の傍らにはS Pの人が防弾の鞆を持って立っていましたが、今回は持っていませんでした。私は中曽根康弘さんが総理大臣の時から北方領土全国大会に行っています。最初は無防備でしたが、細川総理の時から明らかに命を狙われているという内容の警備に変わりました。それがだんだん強化されてきたのですが、今回は非常に危機感が薄れていると感じました。安倍首相は自分が狙われることをあまり気にしなくなっているという感じがしました。日本の国はだいぶ舞い上がっているなというのが、今回の警備から透けて見えました。これでは、いつ叩かれてもおかしくないと思ひます。

トランプ現象を考えるⅡ

本日のテーマは、「判断基準を身につけよう」です。その例として、トランプ現象をとり上げました。

判断基準は本質・大局・歴史です。判断基準を身に付けるのに、自分の肚の中に何かコアになる哲学（中斎塾フォーラムでいへば「知足」）が沁み込んでいるかどうか。沁み込んでいると、判断基準の切れ味が変わって来ます。哲学が修まっていなると切れ味が鈍る。そう思っています。

お話ししたトランプ現象について、氣になる所はありますか？

（井澤幹事質問）トランプさんは、今迄いい思いをしてきた1%の既得権者に入ってい

るのですか？

入っていません。トランプさんは 99%の代表として大統領になったのだと考えていると思います。トランプファーストというのは、自分も 1%にきちんと入りたいという本音の裏返しだと思っています。アメリカファーストをトランプファーストと捉えるべきだと申し上げたのは、そういう意味です。

(國分評議員質問) トランプ氏の出現の背景には、グローバリズムの行き詰まりに伴う、ナショナリズムの台頭があるのではないかと考えますが如何でしょうか。また、ユダヤ資本の動きもあるのではないのでしょうか？

私もそれは同感です。大きな時代の流れをみると、アメリカはお金を使ってグローバリズムを展開し、覇権国家から転げ落ちるのを若干遅らせているのが現状です。これでどうにもならないと思ったので、新しい仕組みを作らなければユダヤの資本は更に富を増やすことが出来ない、自分たちの思うように世界を動かすことが出来ない。したがってナショナリズムをどんどん煽っていく方向に転換を始めていると感じます。トランプさんは、その中の駒ではないかと感じます。ですから基本的な大きな時代の流れ、うねりの結果が彼を誕生させたのだと思います。

中国の習近平さんも同じ流れです。中国は、表面には出て来ない長老達がグループを作っていて、共産主義という看板を下ろそうとしていると思っています。もともとある中華思想の上に民主主義を軟着陸させようとして操りやすそうな習近平を選んだ。ところがおとなしく見えた習近平さんが国家のトップの座に就いた途端にガラッと変わって、皇帝に向かう道を走り始め、長老グループが操れなくなっている・・・という状況だと私は考えています。

中国とアメリカは今、そういう時代の流れに入っている。それが表面化して世の中に明らかになってゆくと考えます。

(梅川理事質問) トランプ氏の言動を見ていく場合に、アメリカ製品を買い・アメリカ人の雇用を増やせというルールを作り、それを基本哲学として根底に持って色々なことを喋っている、そういう解釈でよいのでしょうか。

よろしいと思います。トランプファーストは拝金主義です。お金が一番だと思うところ

から出てきたトランプファーストだと思っています。

今の質問で、次号の季刊誌「知足」に書いた文章を思い出しました。今回の「知足」のインタビューは中曽根康弘元内閣総理大臣にお願いしたいと思い、殿地秘書に相談したのですが、年齢的（耳が遠くなっている）に難しいということで、中曽根さんが書かれた本から引用してはどうかというアドバイスを戴いて取り組んでいる最中です。

その中に、中斎塾フォーラムについて宣伝も含めて次のように書きました。

私ども中斎塾フォーラムの会員は、知足の理念のもと、判断の三原則という本質・大局・歴史の視点を身につけようと努力しています。更に、論語素読を通じて古典を現代に置き換えて考える習慣が日常のものになっています。

こういう表現をあちこちで出しているのが、中斎塾フォーラムがだんだん世の中に浸透しつつあります。私は現在、群馬経済同友会の首都機能バックアップ検討部会のメンバーとして、大きな地震が発生した時に群馬県はどういう動きをするか、県の危機管理や自衛隊の動きについて話を聞きながら研究報告・提言をまとめています。その中で、好むと好まざるとにかかわらず中斎塾フォーラムの活動が世の中の動きと繋がり出して来ていることを感じます。

中曽根元総理について触れたので、もう少しつけ足します。「知足」の記事には、中曽根さんの句集から何句か選んで紹介しています。いくつか読み上げてみます。

「家庭」というタイトルでは、母親に対して衆議院議員初当選の際に作った句

この花を母にそへたきあやめかな
奥様に対しては、結婚記念日に作った句
つつましく老ゆる心に梅の花
老妻にせかさされあける柚子湯かな
娘さんへの句

菊薫る娘が祖母となりし日に

政治に関しての句

暮れてなほ命の限り蟬しぐれ (西多摩郡日の出村 日の出山荘)

鯉一念沈みたるまま動かざる (上北沢)

はるけくも来つるものかな萩の原 (内閣総理大臣に就任)

したたかと言はれて久し栗を剥く (日の出山荘にレーガン米大統領を迎えて)

危機管理に関しては、御巢鷹山の日航機墜落事故の句

傷つきし木々ものいはず秋の風

悲しみに谷の落葉もしずまりて

原爆の句

慟哭にぬかづく丘の蟬しぐれ (長崎原爆記念式典)

夾竹桃紅白たわわ原爆忌 (広島原爆慰霊祭)

友というタイトルでは、大平総理の急逝の際の句

あぢさゐは哀しき花よ友逝きし

風呂の句

猿の子に見られて青葉露天風呂

菖蒲湯に唱歌を唄ふ米寿かな

人生についての句

山蟬の鳴き終わりたる夕べかな

長旅も卒寿も新茶も夢の中

こうやって俳句を見ると、分かりやすい句ばかりです。難しい字を使わず、出来るだけ分かりやすい字を心掛けていると見てとれます。こういう俳句をみると、自分の持っている中曾根さんのイメージとは違うとを感じる方がおられると思います。中曾根さんは不沈空母発言にしても、わざとそういう言葉を選んで発言しているのだと読んだことがあります。自分で自分のイメージを作って、そのイメージを広げて票に繋げるような政治的なパフォーマンスがあると思います。俳句からは中曾根さんの別のイメージが伝わりますね。私は自分の心が清々しくなったと感じました。私も60歳になる前に「筍を 味わうわが身 今が旬」と読みました。今でも旬だと思っていますが……。俳句にしても短歌にしても、何か自分を表現するものがあるとよいと思います。

人はなぜ老いるのか

前回、アポトーシスの法則を申し上げました。アポトーシスの法則についてももう少し分かりやすく説明されている本がありますのでご紹介します。『人はどうして老いるのか—遺伝子のたくらみ』(日高敏隆著 朝日文庫)です。

「おたまじゃくしは蛙の子 なまずの孫ではないわいな それがなにより証拠には やがて手が出る足が出る」という歌がありますが、本の中で科学者がこんな実験をしています。カエルの足になる遺伝子を取り除いて、他の小動物の足の遺伝子を移植したそうです。それでも移植された遺伝子は機能せずに、カエルの足が出てきたそうです。遺伝子の限界を調べると、人間はどうしても人間になっていくし、カエルはカエルになっていく。ですから遺伝子というのは相当細かい所まで想定して作り上げられているように思うけれども、

かなりアバウトなものだと分かったと書いてありました。それで見ると、遺伝子は何世代も何世代もかけて変化・機能してくるのだと思います。一代だけで切り替えることはとても難しいのです。

人はなぜ老いるのか・・・、遺伝子にプログラムされているから仕方がないわけですが、人間は老いるところを自分でコントロールできます。自分だけの知恵ではなく、色々な人の知恵を貰って、長生きさせることが出来ます。決して人は麒麟になることもないし、ゾウになることもないけれども、自分の命を少しずつ伸ばすことは出来るのだと思います。

ということで先程お聞きした健康法に繋がりますが、是非ご自分の健康法を実践されるとうよろしいと思います。私は自転車に乗り始めて、今日で11か月経ちました。土手の上で自転車をこぎますから、冬はほっぺたに冷たい風が突き刺さって来ます。空っ風の時など前に進まないのです。しかし、逆風であればあるほど身になるなと実感しています。

お時間になりました。本日はこれで終了致します。